

月刊 おかじょうき

おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

D511
No. 511

2025

3

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 2月例句会	19
十和田たてがみ川柳会 1月句会報	25
Infomation	28～

月刊おかじょうきを

ど～～しても紙で見たい！

というあなたへ

2月号から紙の柳誌発行を止め、電子柳誌だけの発行に移行しましたが、皆さんには「絶対、電子だけで見てください！」とやっているわけではありません。経済的に余裕のある方は（といっても月数百円くらいですが笑）、製本された形ではないですが、紙に印刷して読む方法もありますので、以下の方法の中から、ご自身の周辺の環境に合った方法でお試してください。

【方法①】 PC とプリンターで印刷する

お家にパソコンとプリンターがあれば、電子柳誌をお好きな大きさの用紙に印刷すれば OK です。

【方法②】 スマホとセブンイレブンで印刷する

右のアプリを使って、お近くのセブンイレブンのコピー機でスマホで印刷することができます。



【方法③】 スマホと近くのコンビニで印刷する

右のアプリを使って、お近くのコンビニ（ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、ポプラ）のコピー機から印刷することができます。



【コンビニでのプリント参考価格】

A3 モノクロ 1 ページ：約 20 円 / A3 カラー 1 ページ：約 100 円
見たいページだけ印刷して節約するのもアリですね！

カンテラ

おれこ

みなさん、今年の雪、大丈夫でしたか？
わが家の庭に、除雪機で飛ばした雪が3メートルほど積もっています。

いつになったら融けてしまおうでしょう。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

桐一葉ひらり笑って散りたいな	村上てる
雪しんしんワイングラスが軽すぎる	まきこ
淋しこの「ん」の字を父がしゃぶってる	笹田隆志
お隣の空き地の草も寂しそう	城後朱美
夏は「夏」冬は「雪バテ」してしまおう	瀧尻善英
事情など聞き始めたら帰れない	斎藤泰子

細雪など雰囲気のある名前の雪がありますが、中で一番人気の高い名前ではないでしょうか。この句を読んで、なぜか「怪談牡丹灯籠」を思い出しました。

B群

靴のサイズが違うじゃないかかきみどり	鳴海賢治
見損なっちゃいけないよ靴下の穴	三浦蒼鬼
爪切る音がする長明の庵	岩根彰子
深呼吸して深呼吸して 逃げる	守田啓子
乳房がまだ貴方の方を向きたがる	田中 薫
花一輪そんなシャープな葬にして	きんぎ彼句善
半身は雪に沈めていましたね	熊谷冬鼓
午前3時試験電波一人で受信	柳本恵子
次の雷を次の男と待つ	米山明日歌

米山明日歌さん、「雷を待つ」も「次の男と待つ」も明日歌さん独特の発想ですね。川柳を作っている方は、オリジナルの作品を常に求めているはずですが、こういう発想はなかなかできません。定型を見慣れた目に新鮮な破調でした。

人でいたくてまだ海にもどれない	坂本清乃
風化した顔が住んでいる鏡	吉見恵子
閉じ込めた夢がそわそわする夜更け	峯島 妙
おーい雲天国までは遠いのか	村上あつこ
前世は何だったのか雪だるま	まみどり
マッチ擦ることさえ知らずスマートフォン	亥のー
亡き先輩とあずさ二号を待っている	安藤なみ
ほらやっぱ、雪舞ってきてみな無口	四ツ屋いずみ
まだ睦月まだ如月って暮らすのよ	吉田州花
牡丹雪誰か訪ねてきたような	渡邊こあき

渡邊こあきさん、「牡丹雪」が好きなようですね。「牡丹雪」は「大きな雪片が牡丹の花びらのように降る雪。ぼたゆき。」(広辞苑第七版)です。淡雪、薄雪、粉雪、

C群

かばい手が地球を引っ掛けてしまう	夏草ふぶき
しりとりの「ん」を避けきれず雪やどり	葉 閑女
嘘つきのパンツを洗う大晦日	芝岡かんえもん
夜用の岸に取っ手は一つだけ	辻井洋子
Aーの怨恨による鼻詰まり	小野五郎

夏草ふぶきさん、「かばい手」は、広辞苑に『庇い手』①かばう人。守ってやる人。②相撲で、重なつて倒れる時、相手をかばって上の者が先に手をつくこと。負けにはならない。』と出て来ますが、この句の「かばい手」はこれと関係ないですよ。私は、弘前の雪道でふぶきさんが転倒した場面を思い出しました。あれで、この句を作るとは…。転んでもただでは起きない、ってこのことだね(汗)

葉閑女さん、「しりとりに」やってるんですか？(笑)『ん』を避けきれず』の次の「雪やどり」が何とも言えません。句の展開って、こうやってやるものなんだね。

芝岡かんえもんさん、これって、自分の「パンツ」

を洗っているんだよね。選りに選って「大晦日」に自分の「パンツ」を洗うって、余程重大な理由があるんじゃないよね（汗）毎年、一年分のパンツを「大晦日」にまとめて洗っているんじゃないよね…。かんえもんさんの「パンツ」って虎の柄だと思っただけ、違っかな…。

辻井洋子さん、「岸」に「朝用」「夜用」「昼用」ってあったんですか。で、「朝用」と「昼用」には「取っ手」が二つついているのに、「夜用」には一つしかついていないんですね。たぶん、「朝用」「昼用」は誰かと一緒に持って頬を寄せ合って使うやつで、「夜用」は洋子さんが独りで使う、ってことかな…。ん？「岸」って何に使うんだ？

小野五郎さん、あの、これ、怖い話ですね。「AIの怨恨」って、初めて聞きました。「チャットGPTの怨恨」なんてのもあるんだろうな…。それで「鼻詰まり」になるなんて危険極まりない…。私も気をつけなくちゃ。ところで五郎さん、「鼻詰まり」治りましたか？どこの耳鼻咽喉科で診て貰ったの？

■おかじょうき川柳社 会員登録しませんか？

おかじょうき川柳社会員登録希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

【会員特典】

- 月例会や会員雑詠集「無人駅」に投句できます！
- 川柳データベースに作品が掲載されます！
- 当柳社が主催する誌上句会等が参加費無料になります！
- 青森の美味しい特産品がたまにもらえます！ etc.

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社
→会費：4,000円（1年分）

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅2月月間賞

追伸に黒酢を回しかけますね

岩根 彰子

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

おーい雲天国までは遠いのか
この世に未練は無いけど生きている
朝も昼も多分寝ている脳細胞
停電でピタリと止まるダルマさん
雪が無ければもつと豊かになれるのに

先月号のお気に入り
いい加減太る話しは止めましょう
まきこ
同感です

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

桐一葉ひらり笑って散りたいな
世渡りのうまかつた三番目の末子
カゼひいて海外旅行泡と消え
苦しさを笑いとばせた母でした
落ちこんだ日に読みかえす娘の手紙

先月号のお気に入り
金星は子を産んだこと銀杏の黄
吉見恵子
私も三人の子を産みそれぞれ道を歩んでいます私の金星
と思っています。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

しりとり「ん」を避けきれず雪やどり
「もういいかい」なんて言えないかくれんぼ
かなしみを悟られぬよう弾くピアノ
泣いて哭いて無垢な青空作りだす
レクイエムだったみたいね春しぐれ

先月号のお気に入り
大切な嘘はこっそり二回言う
須藤しのすけ
そして三度目は正直に告白するのね。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

重くなるのよそれは綺麗な雪だけ
雪つらら しずくそうしてまた雪で
まだ睦月まだ如月つて暮らすのよ
雪斜め冬には言わぬさようなら
どつさりと土産話は雪のこと

先月号のお気に入り
空き瓶に感情移入してないか
熊谷冬鼓
空き瓶も空き箱も大好きですが困りません

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

深呼吸して深呼吸して逃げる
今御簾をあげれば雪がぐずります
怪奇現象なのか老化現象なのか
満たされぬ雪の高さを持って余す
わたくしになれない雪のコブ続く

先月号のお気に入り
とりあえずこむら返りと話し合う
辻井洋子
手強いところから説得しなくては。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

おしやれ着洗いで過去をジャブジャブ
ウソ泣きも作り笑いもする能面
真夜中のロッキー4と不眠症
3. 14159長い長い夜始まる
午前3時試験電波一人で受信

先月号のお気に入り
何回目の脱皮かしらひとり酒
田中薫
今宵のお酒も脱皮のためです。フッフ

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

うぐいす餅春のひかり野連れてくる
大雪警報 水仙月までまだ遠い
風化した顔が住んでいる鏡
ミネルヴァの鼻を呼ぶ折れりんご
縄文の哀からみつく虎落笛

先月号のお気に入り
ちやう？

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

巳年の人と平らげるお雑煮
アボカドの種並みの確信ですの
丁寧な手順 ひとりめしホホホ
蜜蝋の固まるまでにケリつける
ほらやっぱ、雪舞つてきてみな無口

先月号のお気に入り
ばあさんに近づいている眠り姫
まみどり
妙に納得しました！ 王子様はきつと気付かず素通りし
ちやう？

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

幸せを外からみてる冬の雷
雷に撃たれてからの私です
次の雷を次の男と待つ
方法はまだある亀の背に乗って
だいたいの話はみんなつけてある

先月号の
お気に入り
あなたが溢れた 気がした だけ なのか Sin
本当に溢れたんだと思います。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

旅心阻んでいます雪の壁
雪灯りいつしかおちる深い闇
お帰りと待っていてくれる雪燈籠
ポール越えている胸の雪の嵩
牡丹雪誰か訪ねてきたような

先月号の
お気に入り
空き瓶に感情移入してないか 熊谷冬鼓
私は、空き箱に感情移入してしまいます。こんなきれいな人をどうして捨てられましょ。あ 箱でした。

亥の一【いのいち・青森県青森市】

神ならぬジャツジの盲従ジャンケンポン
マッチ擦ることさえ知らずスマートフォン
東口西口の空待ちぼうけ
国旗よりワイシャツ5枚と体操着
皮膚という触覚カラカラ近未来

先月号の
お気に入り
わたくしは「晴れ」の急所を握ってる 米山明日歌
急所を握って昨日を晴れにしたいのですが

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

金平糖群集劇のリハーサル
引き揚げて瀬見の小川のほうほたる
親指を啜え舌打ちする辛夷
爪切る音がする長明の庵
先に泣くなよ小腸のビラビラ

先月号の
お気に入り

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

ノンアルがこんなにおいしい白樺湖
招き蛇店主は巳年だと分かる
法廷に線香強く強く匂う
亡き先輩とあずさ二号を待っている
茹でるまで菜花が見ている窓明かり

先月号の
お気に入り
花言葉知らぬ振りして鉢を買う 戒踊兵
何の花か。気になって気になって。

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

家族五人揃って負け戦
大好きな順に寂しい花一匁
ぢいさんのお花畑は凜として
黒ビール通のフリして持て余す
縋るのは洞察力の水の底

先月号の
お気に入り
やんわりと断る角度がす指 米山明日歌
大人だね

戒 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

三面鏡 一番奥の知らぬ顔
キンコンと鳴るから誰も居なくなる
雪止んでシオカラトンボの青の空
シヤカシヤカといらぬこととする妻と栗鼠
日本の乾燥肌を掻きむしる

先月号の
お気に入り
リモコンを自分に向けて連打する Sin
オンオフ、1チャンネル、5チャンネル、いいなあ。でも思い通りにならないから連打か。

奥田悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

乙巳の腰のラインと屠蘇を酌む
残り火胸に抱く七十路半ば
愛する君の住む街は牡丹雪
喜寿迎え酒場にひとり夢を追う
口づけは愛を呟くウイスキー

先月号の
お気に入り
お話の続きに期待してた頃 まみどり
今も続きが聞きたくて…夢の続きを見たくて二度寝

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

A Iの怨恨による鼻詰まり
使用済みマスクを中間貯蔵する
議事堂は懸崖造りになっている
もうすでに熱帯化している白亜館
原子炉にチクワの穴がいている

先月号のお気に入り

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

枯園をもう受け入れる場所が無い
ふるさとは枯柳のみ触れてくる
風に舞う浜焚火のみ我が故郷
ふるさとを遠い異郷に設定す
泳ぎ切れ小川に落ちた林落葉

先月号のお気に入り

お話の続きに期待してた頃
まみどり
最近は何期待してないですね。騙されなくなりました？

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

花一輪そんなシャープな葬にして
システムキッチンごときにされたしたり顔
連結器外すとただの浮浪雲
あきらめついでに引き受けたドーナツの穴
藪から棒ひよいひよいかわし月満ちる

先月号のお気に入り

輪郭がピンと立ってるさようなら
峯島妙
湿気たさようならなら昨日捨てましたが…

熊谷冬鼓【くまがいつうこ・青森県青森市】

半身は雪に沈めていましたね
円グラフ30パーは草書体
本棚に延長コード繋いでる
後見人誰に託そう茜空
春めいてまた結論の先延ばし

先月号のお気に入り

腐ったミカンのまだ食べれるとこみたい
Sin
そんなところにも川柳はあるんですね

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

特別な日にしよう今日は猛吹雪
猫じゃらしだったとしてもじゃれてみる
今はまず輪郭を描いてるところ
事情など聞き始めたら帰れない
ゆつくりはしていられない風が止む

先月号のお気に入り

紙屑に一度はなってみるといい
芝岡かんえもん
反古紙にはなったことがあるが、紙屑になつたとは思っていなかったなあ…

境沢一千雄【さかいざわいちお・青森県青森市】

季語乗るか乗らずに行くか人は人
句の読者信じ加えぬ添加物
繊細なソナーと暮らし二十年
句の峰へ噴き出せ恋のブースター
恋色に白髪を染めて句を磨く

先月号のお気に入り

ナポリタン癩癩玉をトッピング
岩根彰子
タバスコで物足りない時はそれでいいかと
ところで癩癩玉は自家製ですか？

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

大雪の晴れ間に潜む地の響
豆腐の角潰して話ややこしい
ほどいて編んで繰り返しては飯を喰う
今年の顔探しているが見つからず
人でいたくてまだ海にもどれない

先月号のお気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

彫像に血を通わせた愛の神
白哲の彫像の貌あかがねに
隻眼の彫像なおも麗しく
◎◎◎彫像のそば猫になる
羽撃いた彫像ほどけゆく光

先月号のお気に入り

深く裸子植物として生きる
宮井いずみ
わが身に置き換えて考えました。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

淋しいの「い」の字を父がしゃぶつてる
月までとどく通夜の読経のレクイエム
火照るほど空っぽになる冷蔵庫
汁の雑煮に託す年賀状
手術して直るものなら走らない

先月号のお気に入り
ナポリタン 瘤癪玉をトッピング 岩根彰子
これぞ絶品のナポリタンですね。食べてみたい。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

本日を濃過する ヘソが黒くなる
白状しなさい濁りの深い終い風呂
ニンゲンの凍った道はよく滑る
嘘つきのパンツを洗う大晦日
熱爛に寄りかかっている駅ベンチ

先月号のお気に入り
青春の末端価格を見誤る Sin
青春の末端価格に惹かれた。ところでいくらだったのか。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

臍曲がり臍を戻した臍の位置
温もりが溢れる家で丸く住む
自分史を捲ればまさかの坂ばかり
弱気になったら流れ弾に当たる
夏は「夏」冬は「雪バテ」してしまう

先月号のお気に入り
何故ここにいるのかわからないが いる 守田啓子
こういう場面、私はしょっちゅうあります。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

乳房がまだ貴方の方を向きたがる
戦いたいヒトタチ4次元にいつて
オブラートに包まれた御霊月に行く
愚かなるわめき欲望の固まり
斜めから入ったほうが平和です

先月号のお気に入り

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

ささやかな目標で良し古希だもの
体調が少し良ければ無理をする
温泉の熱さに風邪がぶりかえし
髪はピンクに少しおしゃれをしたくなり
お隣の空き地の草も寂しそう

先月号のお気に入り
太陽も月も私の味方です 須藤しんのすけ
同感です。ついでに火星も入れましょう。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

メリーージェーン履いた私はもうすぐ大人
とりあえずもやい結びの赤い糸
相続の話をしよう寝落ちするまで
君の高さでポニーテールは結ばれる
前髪と前歯そろえた人の勝ち

先月号のお気に入り
望まないはずれ出す水曜日 峯島妙
薄っすらと疲れを感じる週半ば。アレっ？先週もこんな
んだったっけ？ まいっか！

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

悪っぽい島を作っているところ
日記帳三年分を買ってくる
風呂敷を畳んで見える虹の橋
干しぶどう内へと秘めて何処へ行く
夜用の岸に取っ手は一つだけ

先月号のお気に入り
お好みは秋刀魚サイズの人かしら まきこ
わたし、かわはぎサイズかも。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

左手が二本の半人前の家
かばい手が地球を引っ掛けてしまう
骨たちが小魚食えと騒ぎ出す
左手用のハサミが一つマイノリティ
ギプスからはみ出してくる括約筋

先月号のお気に入り
忘れてた私も骨が有ったはず 高木まあこ
そうなの、丈夫な骨があったはずなのに。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

信じてもいいですか北西の星
ただいまの相場としてはかきつばた
靴のサイズが違うじゃないかかきみどり
いやしめにたえるあしたはきつと晴れ
やることはやりきりました窓しめる

先月号のお気に入り
湯たんぽホロロ 手作りジャムるるる 熊谷冬鼓
語呂がよかったです。

舟木小柳【ふなきこりゅう・青森県青森市】

冬將軍を返り討ちだぞ鍋奉行
「巳年だよ」冬眠している父起こす
真夜中の白馬の騎士だ除雪隊
文集のとおり生きてる君が好き
スマホ見ず文庫本読む超イケメン

先月号のお気に入り
煮崩れる話ばかりをする男 米山明日歌
その男は私!? 凶星星を突かれ、ドキリとしました。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

見損なつちやいけないよ靴下の穴
迂回路の先で手招きしてる猫
回り道ですか所詮は裏メニュー
欲の手を洗う無欲の水がある
蓮根の穴から見える結果論

先月号のお気に入り
哲学者の顔だが単に眠いだけ 宮井いずみ
目は開いているのだが眠る瞬間がある。哲学者の顔をして
いるのかなあ。

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

ひとりでも平気ノルマンディのかもめ
煮詰まった別れれどんどん濁り出す
この店が元祖らしいわ知らんけど
はにかむ気分グータツチなら許す
閉じ込めた夢がそわそわする夜更け

先月号のお気に入り
さよならは夢から覚める少し前 一帆
こんなさよならなら、ちっとも悲しくないですね。

まきどり【まきどり・青森県青森市】

あわわわ顎がはずれた明日主役
一歩進めどうにかなるさ落ち着こう
雪しんしんワイングラスが軽すぎる
幸せを詰めすぎました朝茶漬け
露のとういたずら好きな女です

先月号のお気に入り
一個ずつ引き出し捨てに森へ行く 坂本清乃
頑張ってください、応援します。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

前世は何だったのか雪だるま
生真面目なツララとたまににらめっこ
食べている以外は常にリラックス
危機感も緊張感も溶けだした
ゼンマイも電池も行方知らずなの

先月号のお気に入り
未使用の大鍋捨てるしかないね 熊谷冬鼓
その前にパーティーしましょう☒

宮井いずみ【みやいずみ・大阪府大阪市】

サンカクと○致命的勘ちがい
風船のおかげ何とか立っている
オムレツはぐちゃぐちゃ日帰りする言葉
赤い実は毒かもしれないオムゴール
負け犬のたましいお汁粉で洗う

先月号のお気に入り
何故ここにいるかわからないが いる 守田啓子
わたしには眩しい感じ方。自分には詠めないから惹かれ
ます。

むむし【むむし・青森県蓬田村】

受信トレイに時々やって来る人魚
初夢におろしニンニク付いてくる
左折禁止とささやく背中の中札
菜箸で背中を掻いたことがある
鬼の面つけるかクマの面つけるか

さて何処を

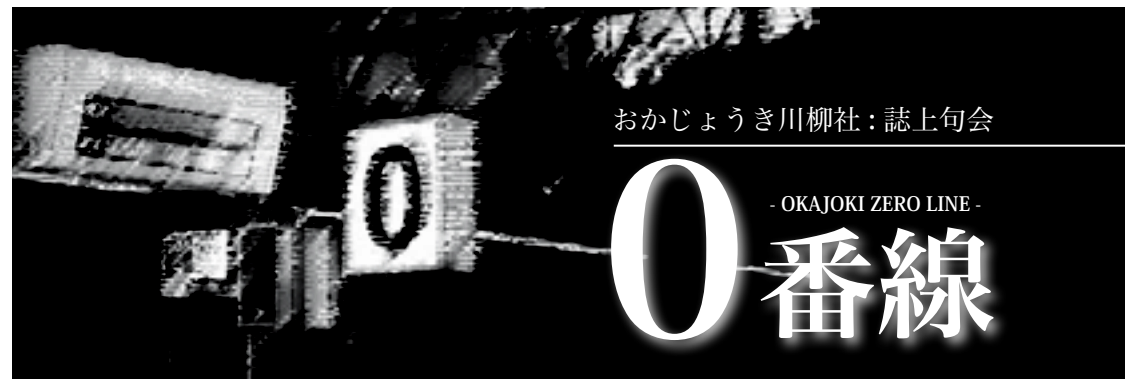
2月8日(土) 午後2時～ アウガ5F 企画ワーク室

▼出席者(16名)

吉田州花・熊谷冬鼓・笹田隆志・Sin・葉閑女・田中薫・守田啓子・きさらぎ彼句吾・渡邊こあき・野沢省悟・原口健二・むさし・境沢一千雄・須藤しんのすけ・高木まあこ・夏草ふぶき

▼投句者(20名)

柳本恵子・岩根彰子・芝岡かんえもん・嵯峨山登・戎踊兵・米山明日歌・奥田悦生・峯島妙・村上あつこ・斎藤泰子・舟木小柳・郷田みや・鳴海賢治・宮井いずみ・坂本清乃・安藤なみ・村井規子・城後朱美・まきこ・まみどり



おかじょうき川柳社：誌上句会

- OKAJOKI ZERO LINE -

0番線

課題と選者(2句詠・共選)

題：『金』

7/31 〆切

選者

妹尾 凜 (秋田県)

むさし (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/>へアクセスし、「投句する」→「0番線」を選び、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。<送信先アドレス：moriko@okajoki.com>

投句料(※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

席題『縁』

青森県青森市 吉田 州花選

【佳作】

縁あつて並んで見てる冬の月 　むさし
 欠けそうで欠けてくれないロクデナシ 　きさらぎ彼句吾
 降りやまぬ雪に多生の縁がある 　熊谷冬鼓
 縁あつてアナタの海で溺れてる 　原口健二
 ふちどりにあなたのことばかりばめる 　渡邊こあき
 かくれんばも通夜も一緒になったのね 　野沢省悟
 つぎはぎだらけ縁は異なものパッチワーク 　笹田隆志
 ホテルから見下ろす紫色の縁 　S i n
 忘却ができぬうなじで知ったひと 　野沢省悟

添いとげました亀裂だらけになつたけど 　きさらぎ彼句吾

縁ですぬ涙をふいてくれた朝 　高木まあこ

居酒屋でたまたま隣だっただけ 　境沢一千雄

やつとやつと出逢ったバラの棘だった 　野沢省悟

酒好きと思われている酔芙蓉 　葉 閑女

立春の縁の切り方結び方 　守田啓子

【秀逸】

せんべいの耳です私その程度 　境沢一千雄
 白菜の芯でいつものように逢う 　きさらぎ彼句吾
 濡れ縁で今日も待ってる花便り 　葉 閑女

【特選】
 信長の遠縁らしいオニアザミ 　むさし
 ① 信長とオニアザミに納得でした。

席題『縁』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

「全日本で金賞取りたくね？」って誘う火曜日 　須藤しんのすけ
 濡れ縁で今日も待ってる花便り 　葉 閑女
 花に吹雪に今も戻れる机椅子 　吉田州花
 忘却ができぬうなじで知ったひと 　野沢省悟
 白菜の芯でいつものように逢う 　きさらぎ彼句吾
 帽子の縁隠し切れない涙涙 　高木まあこ
 因縁の相手と知って髭を剃る 　原口健二
 日曜は写楽の顔で歩いてる 　笹田隆志
 ふちどりにあなたのことばかりばめる 　渡邊こあき

縁ですぬ涙をふいてくれた朝 　高木まあこ

前世ではさくらもこの父だった 　むさし

暗証番号求められてる縁結び 　S i n

縁あつて並んで見てる冬の月 　むさし

添いとげました亀裂だらけになつたけど 　きさらぎ彼句吾

立春の縁の切り方結び方 　守田啓子

【秀逸】

信長の遠縁らしいオニアザミ 　むさし
 欠けそうで欠けてくれないロクデナシ 　きさらぎ彼句吾
 やつとやつと出逢ったバラの棘だった 　野沢省悟

【特選】
 血縁を支えています突っぱり棒 　渡邊こあき
 ① それでも支え合ってるのは血縁だからこそ。

宿題『尖る』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

まるいんじゃないよ尖れなかっただけ
 ほどほどに尖って居ますまだこの世
 うつすらと雪尖るのは止めました
 鉛筆を研げぬ少年いま外科医
 尖りかた忘れちまった鉋の刃
 とがつつてる自覚はななくてよナイフ
 春を待つ尖ったところをゴミに出し
 ドア閉める音に確かな棘がある
 唇をとがらせ春を呼んでみる
 迷い箸横断歩道が渡れない
 帽子脱ぐ角まで脱ぐのやめなさい
 ほんとうは尖がつている楯円形
 凶器とみられる伸びきった「ガンバレ」
 つまむのは辞めてよ尻尾伸びてくる

嵯峨山登
 村井規子
 郷田みや
 舟木小柳
 芝岡かんえもん
 吉田州花
 守田啓子
 熊谷冬鼓
 葉 閑女
 夏草ふぶき
 野沢省悟
 郷田みや
 S i n
 まみどり

太陽が尖る埴輪にでもなるか

鋭角に「ゴメンナサイ」と言い放つ

たしてひいてかけてわって涙して

虫ピンで留めてたはずの人ののに

相輪をもつてのほかが迂回する

雨つぶ尖る待っているのはもうやめる

【五客】

渦巻くか尖がるか人をやめちゃうか

家が鳴る何に怒っているのだから

誰のつらだらう夕陽が閉じ込められている

尖つてた絶頂だったなぜ逝つた

はがきからはみ出している五寸釘

【人位】

要塞は消えた折れ釘の中へ

【地位】

ネットでつぶやく刺殺できるぞタワシにも

【天位】

墓場まで尖つたままで行くのかい

♪ そんなことをしていると疲れるだろうに

…。

安藤 なみ

S i n

田中 薫

夏草 ふぶき

安藤 なみ

米山明日歌

守田啓子

渡邊こあき

S i n

嵯峨山登

夏草 ふぶき

葉 閑女

葉 閑女

きさらぎ彼句吾

渡邊こあき

宿題『煮』

青森県外ヶ浜町 Sin選

【佳作】

煮え切らぬ人生刻む心電図
 うつすらと愚痴が浮いてるおでん鍋
 煮て焼いて揚げれば若くなりますが
 フジテレビ鍋で煮ているX子
 セーラー服素手で煮ているおじいさん
 煮崩れはしません冬の会議室
 レシピ通りに人生を煮直している
 煮込んでも煮詰めてもまだ義理の仲
 沸点を越えても消えぬ毒を吐く
 煮えたぎることもあつたな冬椿
 出汁きいた言い訳だもの騙される
 煮込みすぎましたながくい春でした
 新芽ぴよこん煮つまりきつた所から
 煮沸消毒鬼の呪文よ

舟木小柳
 むさし
 吉田州花
 野沢省悟
 野沢省悟
 郷田みや
 郷田みや
 芝岡かんえもん
 葉 閑女
 戎 踊兵
 坂本清乃
 守田啓子
 嵯峨山登
 きさらぎ彼句吾
 吉田州花

あぶら揚げ京のいけずを煮含めて

煮崩れて裏の顔までみせちゃう

深部体温零下 ぽつんと独り鍋

プーチンを縄文土器で茹でている

カボチャの生煮えガバナンスの欠如

闇鍋に忍ばせておく要介護

【五客】

くたくたに煮えたあんとあたしだもん

口移しする煮卵の意気地なし

踊らせて煮るのが私流だから

無造作が跳ねてなかなか煮えません

優しさに慣れていないの煮崩れる

【人位】

煮てたべた焼いてもたべた古日記

【地位】

来週を軽く下茹でしてるとこ

【天位】

さて何処を煮るか君の言い草の

♪ つっこみどころ満載のいますよね。

岩根 彰子

米山明日歌

きさらぎ彼句吾

むさし

渡邊こあき

葉 閑女

守田啓子

須藤しんのすけ

吉田州花

郷田みや

まみどり

まみどり

鳴海賢治

斎藤泰子

斎藤泰子

戎 踊兵

戎 踊兵

宿題『自由詠』

青森県青森市 境沢一千雄 選

【佳作】

てのひらで寝ちやうじゃんけん春隣
瓶の蓋開けられないのも雪のせい
男のポケットから空の切れ端
美容室の鏡に無理難題を言う
ドラえもんでいるのも楽じゃありません
だるまさんが転んだ夕陽が沈む
鬼は外鬼と一緒に外に出る
青空を呼び込むように寒椿
懺悔懺悔背中に咲かす雪の花
追伸が降るほろほると春の雪
てにをはを端折り太めの妻の椅子
夢ん中般若の角に触れたのよ
後期高齢ジョーカーはまだ放さない
浴槽でゆつくりと押す「つき降ります」

宮井いずみ
熊谷冬鼓
米山明日歌
柳本恵子
まきこ
村上あつこ
野沢省悟
葉 閑女
むさし
野沢省悟
葉 閑女
高木まあこ
野沢省悟
S i n

渋滞の先頭にいるアメフラシ
接木されあなたの枝に咲くワタシ
だんだん茶筥筒になっていく姑
水蜜のにほいばつかりにわか雪
ないしよつてミッフィーのお口
なるほどがぶら下がってる春の先

熊谷冬鼓
芝岡かんえもん
岩根彰子
岩根彰子
峯島 妙
守田啓子

【五客】

水溜まり誰に覗いてほしいだろ
満月を七つ道具に足しておく
たい焼きの尻尾に恋をしたあの日
あるわよパセリにも承認欲求
天空のオーロラアナタかも知れぬ

斎藤泰子
郷田みや
奥田悦生
きさらぎ彼句吾
芝岡かんえもん

【人位】

戦地でも被災地でもない甘酢漬け

きさらぎ彼句吾

【地位】

抜かないで砂丘のあかい三日月は

嵯峨山登

【天位】

性欲は煮沸消毒したばかり

S i n

↑それで消えましたが、私はなかなか。

十和田たてがみ川柳会二月句会

○日時 1月18日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ 佐藤まさあ

き・斉藤蛙井・白山修治・瀧尻善英・福田芳記・

村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

齊藤 蛙井 選

■席題『類似』

【平抜き】

投稿の類似で見事没にされ
共に生き稲穂のようになる親子
姉に似て妹でまた器量良し
席題で他人も浮かぶ類似の句
雰囲気か話題似てくる趣味の会
類似点無いけど長い友でいる
津軽弁フランス語にも少し似て
性格の類似に丁度良い二人
紛れなく私は亡父の類似品

木村奈生美
村上 昌子
佐藤まさあき
福田 芳記
白山 修治
村上 昌子
佐藤まさあき
木村奈生美
高田 幸柳

【秀逸】

日々一緒やはり似た者同士かも
どの顔も待合室は似たような

木村奈生美
白山 修治

【特選】

類似品ばかりが街を闊歩する

高田 幸柳

■席題『類似』

【平抜き】

同じ窓類似の団地貧困化
笑いじわまでも似てきた老夫婦
双子でも似ても似つかぬ性格が
雰囲気か話題似てくる趣味の会
姉に似て妹でまた器量良し
会話拒否類似の野党自己主張
大国のあちらこちらに類似品
津軽弁フランス語にも少し似て
席題で他人も浮かぶ類似の句
投稿の類似で見事没にされ

瀧尻 善英 選
齊藤 蛙井
齊藤 蛙井
佐藤まさあき
白山 修治
佐藤まさあき
福田 芳記
高田 幸柳
佐藤まさあき
福田 芳記
木村奈生美
高田 幸柳

【秀逸】

類似品ばかりが街を闊歩する

高田 幸柳

共に生き稲穂のようになる親子

村上 昌子

【特選】

紛れなく私は亡父の類似品

高田 幸柳

■宿題 『留守』

福田 芳記 選

【平抜き】

愛犬は留守が嫌だとドアで待つ

久保あざみ

留守番の猫をしつかり抱きしめる

城後 朱美

外出はスマホで管理 今流行り

白山 修治

一人留守 好き放題でリフレッシュ

白山 修治

妻の留守 くさやつまみに酒臭い

瀧尻 善英

爛酒を少し多めの妻の留守

佐藤まさあき

カップ麺一つで済ます妻の留守

木村奈生美

レトルトで済ましておいてと妻のメモ

佐藤まさあき

留守番は夫にカレー作り置き

城後 朱美

今日こそと訪ねてみれば無駄足か

白山 修治

母の留守だけで冷たくなる我が家

木村奈生美

デイケアの母の帰りを待っている

城後 朱美

【秀逸】

クロネコと掛け取り泣かす留守の家

佐藤まさあき

留守番のお土産代が高くつく

高田 幸柳

【特選】

母は今 留守だと言えと言ってます

高田 幸柳

■宿題 『ルーズ』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

退職し時間にルーズ屋ですよ

久保あざみ

還暦はすでにくびれが有りません

久保あざみ

生真面目もルーズも入る投票所

木村奈生美

飼い主がルーズ散歩を待たされる

城後 朱美

食器が溜まるお一人様の台所

城後 朱美

ルーズには厳しく見てる世間の眼

木村奈生美

ずぼらでも三度の飯は忘れない

高田 幸柳

荷を下ろすあとはルーズに生きようか

斉藤 蛙井

休日は万年床でリフレッシュ

高田 幸柳

はやつたなルーズソックス今いずこ

福田 芳記

性格が依頼延び延び許さない

磯島 雅男

着付け師のルーズにならぬ技多様

福田 芳記

【秀逸】

ぼつちやりでルーズな服が似合わない

城後 朱美

だんだんとルーズになったへみ合わせ

磯島 雅男

【特選】

生真面目に適度なルーズ少し盛り

高田 幸柳

■宿題 『ルール』

互選

①没句でも休まず参加するのです

久保あざみ

②守り合うルール絆の輪が丸い

木村奈生美

③手のひらの妻のルールで御満悦

村上 昌子

④校則の鋳型に若さ納まらぬ

尻 善英

⑤まっすぐに歩めば鬼も避けて行く

白山 修治

⑥渡り終え園児ちよこんとお辞儀する

佐藤まさあき

◆十和田たてがみ川柳会3月句会案内◆

【時】 3月15日(土) 午前10時から 【所】 十和田労働

福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『老化』・村上昌子選

／『朗報』・斉藤蛙井選 【互選】(一句詠)『浪費』当

日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】『当日

発表』(三句詠・共選) 選者は、瀧尻善英ほか出席者か

ら一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72

高田幸柳宛



句先まで問合せ下さい 【主催】京都みんなの川柳誌上大会実行委員会【共催】京都川柳作家協会【後援】京都府・(公社)福知山市文化協会・京都新聞

□ **2025.04.20 第2回 あおもり春の川柳まつり**

【日時】2025年4月20日(日)12時受付/席題発表12時30分/投句締切13時30分【会場】ねぶたの家ワ・ラッセ(青森駅横)【会費】1,000円(発表誌を含む)※大学生以下無料・懇親会なし【披講】司会・北山まみどり/文台・守田啓子・滋野さち【席題と選者】1題2句詠/披講14時30分『』2人選(選者は当日参加者に依頼)【宿題と選者】2句詠 ※投句拝辞『進む』にじの真美選/『たっぷり』大黒屋サチエ選/『新聞』新聞記者A選★第1回川柳まつり大賞『自由吟(雑詠)』2句詠/吉見恵子・きさらぎ彼吾吾・柳谷たかお共選 ※大賞は3人の特選から瀧尻善英・むさし・千島鉄男の二次選考で決定【賞】★各特選作品・川柳まつり大賞に呈賞 ★ユーモア賞(当日の入選全句より、高瀬霜石選で数句に呈賞、発表誌にて発表)【問合せ】青森県川柳連盟事務局 濱山(Tel 080-5574-9297)

□ **2025.04.30 第14回東北川柳文学大賞募集**

【応募資格】東北6県の在住者(災害による避難先は可)【応募用紙】専用の応募用紙(コピー可)。またはA4判の原稿用紙に縦書き。その際冒頭にタイトル・未発表作品10句・郵便番号と住所・柳号(氏名)・電話・所属結社の順で明記。※用紙必要な方は事務局に連絡してください。【応募料】1篇¥1,000(複数応募可)現金・郵便小為替※会報の送付を以って領収書に替えさせていただきます。なお応募時に大賞受賞者句集の購入予約(句集予約と添書きし1冊につき¥1,200同封)をいただくと送料無料でします。【締切】2025年4月30日(消印有効)【選者】梅崎流青(福岡)・齊藤由紀子(東京)・野沢省悟(青森)・長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・片倉卯月(山形)・駒木香苑(福島)・雫石隆子(宮城)・【賞】大賞～賞状、記念品、副賞として川柳句集の無料発行権と100冊を授与。【発表】2025年6月中旬予定(受賞者へ連絡)【表彰】7月13日(火)※予定【応募先】〒981-0134 宮城県宮城郡利府町しらかし台3丁目4-9 堀之内稔夫 宛(東北川柳文学大賞係)Tel 022-356-7346【主催】東北川柳連盟【事務局】宮城県川柳連盟

川柳の情報をお待ちしております。

□ **2025.03.15 『らくだ忌』第4回川柳大会**

【とき】2025年3月15日(土)開場:10時30分/投句締切:11時30分/披講開始:13時30分 ※昼食は各自でお済ませください【ところ】クロスバル高槻・8階イベントホール(高槻市立総合市民交流センター)Tel 072-685-3721 JR高槻駅徒歩4分【兼題・選者】(各題2句)※欠席投句拝受「夢十夜」藤田めぐみ選(東京) / 「くしゃみ」真島涼選(佐賀) / 「五分前」川合大祐選(長野) / 「ひと塩」前中知栄選(京都) / 「ひょいと」石橋芳山選(島根) / 「濡れた靴」中野六助選(京都) / 「雑詠」くんじろう選(大阪)【事前投句兼題・選者】「ざっくばらん」1句 兵頭全郎選(大阪)【事前投句・欠席投句締切】2025年2月17日(月)※当日消印有効【参加費】2,000円【懇親会】「炭撰屋(たんとや)」6,000円(先着順50名様まで)※席数に限りがございます。お早めにご予約下さい。※披講順等 大会当日に変更する場合も ございますので予めご了承ください。■参加費のお支払方法について 当日大会にご出席される方は 当日参加費をお支払いください。(参加費2,000円)事前投句料は無料です。■欠席投句で参加される方 欠席投句・事前投句とも 2,000円を次の方法でご送金ください。「手渡」らくだ句会・例会で受付 / 「郵送」事務局宛に定額小為替または現金(切手不可) / 「振込」ゆうちょ銀行(店名)448 / (預金種目)普通預金 / (口座番号)2865976 / (口座名)川柳結社ふらすこてん■事前投句・欠席投句の方法 投句用紙あり(コピー可) / ご投句は封書のみ、メール・FAX等でのご投句はお受けできません。ご了承ください。【送り先・問合せ】「らくだ忌」第4回川柳大会実行委員会(川柳らくだ事務局)〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 森茂俊 内 ※お問い合わせでお急ぎの方 くんじろうスマホ 090-5125-7905

□ **2025.03.31 京都みんなの川柳誌上大会**

【宿題】各題2句(未発表句に限る)『落ちる』峯島妙(前年度優勝者・大阪)・中野六助(京都)共選 / 『手帳』藤井智史(岡山)・伊藤寿子(北海道)共選 / 『自由吟』新家完司(鳥取)【『投句締切』令和7年3月31日(月)必着【投句用紙】規定投句用紙あり・コピー可【投句料】1000円(定額小為替または現金、切手不可)【発表】6月に作品集を郵送【賞】各題特選句と秀句2句に呈賞。成績を合点し上位から誌上大会実行委員会大賞・誌上大会実行委員会準賞・福知山市文化協会長賞・京都新聞賞・京都川柳作家協会長賞・優秀賞を贈呈【投句先】〒610-0102 京都府城陽市久世上大谷80-14 木口雅裕方 京都みんなの川柳誌上大会事務局あて Tel 090-9863-1251【「問合せ先」投

■会費拝受【1月受付分】

金瀬達雄（富山県）/ 四ツ屋いずみ（北海道）/ 三浦蒼鬼・高田幸柳・戒踊兵・まみどり・笹田かなえ・土田雅子・木村美映（以上青森県）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆2024年10月11日にNHKで放送された「チコちゃんに叱られる」で「なんで「ドキドキ」「ゴロゴロ」って繰り返すの？」という日本語のテーマが取り上げられていた◆このような繰り返すオノマトベは、日本最古の書物である「古事記」にも登場するようで、「さらさら流れる水」など自然の音や動きを表すのに適した表現として用いられていたよう。なぜ繰り返すのかというのは、ひとつには継続性を伝えるためと言われている。前述で言えば「さら々と流れる水」と書くと、一瞬で水が流れてなくなるように感じる。「さらさら流れる水」とたった1回繰り返すだけで、永遠に流れ続けている水に思えるから不思議だ◆もうひとつ大きな要素として、特に日本人は4モーラが大好きということ。モーラとは「拍」のことで、仮名ひとつを1モーラと数える。川柳は17モーラということになる。繰り返すオノマトベも4モーラで、日本人が心地いいリズムだそうで、それが現代でも通じていて、短縮系は4モーラが断然多い。「キムタク」「コンビニ」「ケータイ」「ドタキャン」「ツンデレ」「棚ぼた」「ドリカム」「髭ダン」などなど、挙げれば

枚挙にいとまがない◆で、である。なぜ、そんな大昔から4モーラが大好きな日本人なのに、短詩は5と7ばかりで、4拍が出てこないのはなぜなんだろうと考えるのである。そこで、ひとつ仮説を立ててみる。単語ひとつひとつでは気持ちのいい4モーラだが、その単語を文章や詩で使用する場合、助詞を加えた5モーラが気持ちのいいリズムになるのではないかと。ということで、川柳をリズム符にしてみる。

| ♪♪♪□ | ♪♪♪♪♪□ | ♪♪♪□ |

「キムタクに□ツンデレされて□ドキドキだ□」◆句の出来は置いて（笑）こうなると、場合によっては中8も気持ちのいいリズムになり得るということになるし、極端に言うとも、4モーラを組み合わせた888も気持ちのいいリズムの作品が理論上は作れるということになる。ただ単に五七五だからと形ばかりで論じるのは、安易な気もしてくる◆このように作句するときは、作品の内容や意味性などだけではなく、リズムやメロディなど音楽性も考慮して仕立ててみるという試みもいかがかな？◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2025.03.01 おかじょうき川柳社本社3月句会

【日時】3月1日（土）午後2時～【所】アウガ5階小会議室（【投句締切】2月28日（金）15時【宿題】）（各題3句詠）『長い』『抜』『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『缶詰』1句【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2024.3.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句（5月号分）

【締切】3月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】5/1発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2025.04.05 おかじょうき川柳社本社4月句会

【日時】4月5日（土）午後2時～【所】アウガ5階小会議室（【投句締切】4月4日（金）15時【宿題】）（各題3句詠）『匂う』『値』『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『ベッド』1句【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2025.04.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句

【締切】4月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】6/1発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



青森県東津軽郡田村阿弥陀川字汐乃43-1-3 ●E-Mail:info@okajoki.com

●発行人／むさし●編集／Sin●発行／おかじょうき川柳社●表紙題字／金子榮風

2025年3月1日発行（年12回発行） 第30巻3号通巻372号

●発行人／むさし●編集／Sin●発行／おかじょうき川柳社●表紙題字／金子榮風

「おかしな話」の巻... 春の月指先が流れる桃に届かない仁王門... 雪が降りてくると、春の月指先が流れる桃に届かない仁王門... 雪が降りてくると、春の月指先が流れる桃に届かない仁王門...

「おかしな話」の巻... 春の月指先が流れる桃に届かない仁王門... 雪が降りてくると、春の月指先が流れる桃に届かない仁王門... 雪が降りてくると、春の月指先が流れる桃に届かない仁王門...

おかしな話 柳川きょう

http://okajoki.com/ 柳川きょうの作品... 雪が降りてくると、春の月指先が流れる桃に届かない仁王門... 雪が降りてくると、春の月指先が流れる桃に届かない仁王門...